

各 位

上場会社名 FCM株式会社
 代表者 代表取締役社長 市居 律雄
 (コード番号 5758)
 問合せ先責任者 専務取締役 管理本部長 川森 晋治
 (TEL 06-6975-1324)

業績予想の修正および配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ平成22年4月27日に公表した業績予想ならびに配当予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成23年3月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成22年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,700	320	320	192	112.66
今回発表予想(B)	7,817	192	232	150	88.02
増減額(B-A)	117	△128	△88	△42	
増減率(%)	1.5	△40.0	△27.5	△21.9	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成22年3月期第2四半期)	6,297	230	270	175	103.03

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	16,500	700	700	420	246.45
今回発表予想(B)	16,371	462	515	330	193.65
増減額(B-A)	△129	△238	△185	△90	
増減率(%)	△0.8	△34.0	△26.4	△21.4	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	13,818	555	621	405	238.04

修正の理由

当第2四半期会計期間においては、中国をはじめとする新興国の成長を牽引役とした世界経済の回復も減速し、国内においては景気刺激策の終了や依然として弱い個人消費、雇用不安、円高やデフレなど先行き不透明な状況となっております。

電子機能材事業においては、売上高は確保したものの急激な円高を背景とした客先の最終需要の伸び悩みや、それによる生産調整、顧客間の競争激化、コストダウン要請による単価の下落や利益率の悪化などから利益面では当初の計画に届きませんでした。また、期待していた新規量産案件の早期での立ち上がりも、下期以降となる見通しです。さらに、将来の事業拡大に貢献すべく研究開発への注力を継続しており、開発費の負担も増加しました。

一方、電気機能線材事業においては、銅価が再び上昇傾向に転じるなか当社の主要マーケットである建設関連の不振、国内需要の低迷により回復のきっかけをつかむことができませんでした。また、一部製品の納入が下期へ延期となったことなどから、当初の計画を下回ることとなりました。

通期での業績到達見込みについては、延期となった案件の再スタートなど一部では回復が見られるものの上期までの流れは大きく変わることなく、上期に比して微増にとどまるものと予想されます。また、新規の量産案件がスタートするものの規模が限定的であり、業績に対し大きく寄与するまでには至りません。今後とも業績予想を達成すべく最大限の努力を続けてまいります。顧客動向も流動的であり早期の回復は厳しい見込みです。以上の結果、平成22年4月27日に公表した業績予想について修正することとなりました。

※上記予想は現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

● 配当予想の修正について

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
前回予想 (平成22年4月27日発表)	—	10.00	—	64.00	74.00
今回修正予想	—	10.00	—	48.00	58.00
当期実績	—	—	—		
前期(平成22年3月期)実績	—	10.00	—	62.00	72.00

修正の理由

当社は年間配当性向30%を指標として配当予想を発表しております。本日、平成23年3月期の業績予想を修正いたしました。そのため、中間配当は据え置きの10円とさせていただきますが、期末の配当予想を修正させていただきます。

以 上